



# 音楽のよろこび

2025年 1月20日 No.62  
発行文責 担当事務局  
田中正恭 田村乃里子

ちょっと遅れましたが、あけましておめでとうございます。皆様、新しい年をどの様にお過ごしでしょうか。

今年2025年は、ベートーヴェンの第9初演（1824.5.7 於ウィーン）から200年。そして、日本での完全な形での初演は1924年で、100年だそうです。（その前の1918年、徳島県鳴門市でのドイツ兵捕虜たちによる男性のみ、楽器を欠いた形でのオーケストラによる演奏という有名な事実もあります。）

受講生の皆様の中で、第9の合唱に加わったという経験をお持ちの方もおられるのでは、それくらい日本では第9の人気は大きいですね。

また、元日のウィーンフィルの「ニューイヤーコンサート」を見た！という方も多いのでは、そこで演奏された「美しき青きドナウ」にちょっとシビレタ～という方もおられるかも。あの曲の作曲家、ヨハン・シュトラウスⅡ世、ワルツ王とも言われる人ですが1925年10月生まれ、200年ほど前ですね。今年はそんな年なのです。

しかし、今、世界は戦火が絶えず、毎日悲惨な報道があります。日本では能登での大地震から1年、昨年9月の大雨被害、未だに避難所で暮らす方が多数、復興どころではない現状にこの国の有様を歯がゆく思います。

一方、昨年は日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）に、ノーベル平和賞が授与されました。核兵器廃絶への歩を進めていく年に今年は前進していかねばと、考えた方も多かったのではないのでしょうか。

混沌とした新年の幕開け…だからこそ音楽やその他芸術ある人生を私たちは握ってはなさない。人間は唯一文化を有する生きものなのですから。そんな思いで日々過ごしたいと思います。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

そして、今日は本講座から皆様への新年のおくりもの ニューイヤーコンサートです。京響のすばらしい金管アンサンブル、心ゆくまで味わいたいと思います。

今日の出演者は、トランペット 稲垣 路子さん 新穂 優子さん ホルン 水無瀬 一成さん  
トロンボーン 戸井田 晃和さん チューバ ピーター・リンクさん

では、よろしく願いいたします。

♪ 前回 「オーボエ：戸田雄太さん ファゴット：村中宏さん ピアノ：炭田絵梨さん」

すごく楽しかったですね。とてもいい楽器の説明、オーボエ、イングリッシュホルン、オーボエダモーレの3つの楽器をじっくり見ることができました。各々の楽器の活躍する楽曲を、聴かせていただけました。ポレロで鳴っているのはオーボエダモーレだとはじめて知りました。その他いろいろな発見があったと思います。とても難しい楽器だという事がよくわかりました。

「通奏低音」の見事な演奏のファゴット、美しいピアノの響き。本当にありがとうございました。

「あい」染のおはなしもよかったです。



## ～アンケートから～

いつもアンケートにご協力  
ありがとうございます。  
アンケートは一部抜粋したのもの  
あります。ご了承ください。

自分の身体が楽器になるのは、とても苦しい思いをされ、あの美しい音を作り出されているのですね。お顔がとても赤くなっていくので、心配になりました。それで楽器と指使いばかり見て聴いていました。

ヘンデルのオーボエソナタはファゴットも入り、楽しく聴くことができました。バロックの響きが華やかでピアノかチェンバロのように楽しく響きました。

ボレロの印象的な音の楽器は、オーボエダモーレということを知ってもらい、よく聞く曲なので、より身近に思えました。(外村律子さま)

3つのオーボエの楽器のちがい、リードのことも、吹かせてもらう人を隣に見て、その微妙な奥深さと音色がとてもしみじみと心に伝わりました。ピアノやファゴットもいい響きで、どの曲も幸せな気分になりました。

最後のプーランクは軽快で、又優しく、3つの楽器がとけあいつなぎあい、素敵な世界でした。(Y.Hさま)

リードを吹かせていただきありがとうございました。貴重な体験でした。難しい！

小さくて狭いリードのすき間に少しずつ息を吹き込み、大きくて美しい音色出すのは、とても難しい技術ですね。難しい楽器です。演奏される曲からは、ただただ美しい音色だけが届けられ、心地よい演奏をありがとうございました。

オーボエダモーレで演奏された、赤とんぼの曲は憂いがあって切なさもありしみ込みました。楽しかったです。

オーボエの話、大変よくわかりました。オーボエの種類について知りました。最後の曲、本当に楽しそうに演奏され、間近で聴くことが出来て、生のコンサートの良さを楽しみました。

演奏も素晴らしかったですが、様々な解説(楽器のこと、リードのこと)も、丁寧にさせて頂いてありがとうございました。

本日の演奏とお話、楽しく聴かせていただきました。どうもありがとうございます。以前、クラリネットのときにリードのお話を伺いましたが、改めてリード作りと木管楽器の奥深さを知ることが出来ました。

また、父が手描き友禅職人だった関係で、着物には大変興味があり、藍染めのパンフレットと反物を興味深く拝見しました。11月も後半、あわただしさを感じる今日この頃でしたが、今日は心落ち着く一日を過ごすことができました。(荒井さま)

今日も楽しく拝聴いたしました。来年も受講したいと思います。

今年は幸福な年になりました。過日のファゴットに続き、オーボエのリードを吹かせていただくことができました。オーボエのリードは小さくて大変でしたが、両方とも音を出すことができました。

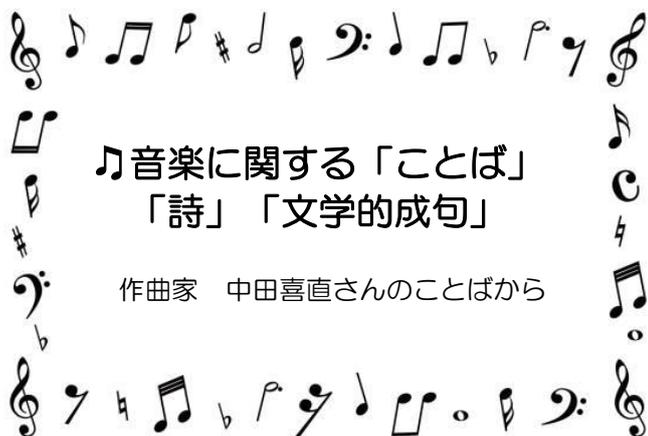
あんなに小さなリードがふくよかな音、優しく心にしみる音が出るなんて、オーボエは素晴らしいと思いました。世界一難しい楽器も理解できます。Ob、Fg、Pfの演奏も素晴らしかったです。村中さん再登場ありがとうございました。(布川博さま)

いつも京響の演奏会楽しみにしています。木管・金管のソロ演奏を、お姿も含めてまじまじと拝見し、吹き始めの緊張されたご様子や、他の方の演奏を良く聴いて、メロディーを受け渡そうとされているお姿にワクワクさせてもらっている一人です。

この講座では、そのような部分でなく、一曲を間近に聴かせていただく事ができ、丸ごと楽しませていただける貴重な機会でありたいです。お話も、とても楽しく、オーボエがますます身近になりました。ありがとうございました。最後の三重奏曲、聴くことが出来て本当によかった。すばらしかったです。(T.Kさま)

オーボエ、柔らかく優しい音色が素敵でした。また牧歌的でゆったりとした気分となりました。「ブラボー」です。リードの大切さと良いリードの作り方の難しさと、できるまでを示した標本も見せていただき大変参考になり、勉強になりました。

(住まいが、「芦刈山町」で山鉾巡業の「芦刈山」でもありリードが葦で出来ているのに親近感を持ち驚きました。)講師の皆様へ感謝です。(Y.Oさま)



## 音楽に関する「ことば」 「詩」「文学的成句」

作曲家 中田喜直さんのことばから

今回は皆さんよくご存じの作曲家、中田喜直さんのことばから、中田さんは「雪のふる町を」「夏の思い出」「小さい秋みつけた」など、私たちがよく知る名曲を作った方です。

1940年東京音楽学校（現東京芸大）ピアノ科に、そして「芸大のショパン」と呼ばれる情感あふれる演奏をしたそうです。1941年繰り上げ卒業、その時、激情ほとばしるショパンのソナタNo.3短調を弾き、陸軍飛行学校へ。将校としてフィリピンへ、特攻隊にと告げられるも、別任務となり帰国、終戦。

将校は銃殺とのうさを聞き、家族、友人にサンサーンスのコンチェルトを弾いてみたかったと遺書を書く……。

その後、中田さんは手があまりにも小さかったため、ピアニストの夢をやめ、作曲家となる。その後1オクターブの通常より1センチ狭いピアノを考案、それははからずもショパンの時代のピアノとほぼ同サイズだった。

インタビューした人が「その普及は現実には困難では…」という「難しいという人は大体において現状を変えたくない人なんですよ。一人が頑張ってもどうしようもない、そんな風に、個を冷笑する人がやがて「多数派」という権力になってゆくのです。」と。1999年そのピアノを持って、ドイツ・オーストリアへ「大好評だった」と。その翌年ガンで亡くなった。しかし、その考えは、今でもダニエル・バレンボイムが独自に取り組んでいる……。

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」・文学的成句などを書いていきます。》

音楽は他社にとっての静寂を尊重する心から生まれる美しいものを素直に美しいと言わせなくするのが戦争

中田喜直

上記のことばを、すくいと記録し、毎日新聞の記事にしてくれた、吉田純子さん（特別編集委員）は、大切な人のささやかな喜びや、こらえている涙に気づく感性を培うのが芸術なのだ、と中田さんの旋律に宿る途方もない優しさに気づく……と述べています。

（以上、主として2023.10.15付毎日新聞）

言うまでもない事ですが、そんな優しさを体現した中田さんだったから、その反対の意志は激しかったのでしょ。

戦没画学生の慰霊美術館「無言館」（長野上田市）は戦争のため絵筆をうばわれ、命をもうばわれた人々のためにつくられました。窪島誠一郎氏（無言館館長）らの努力は多大なものだったし、今も存続のための努力がなされています。でも音楽の分野でも多くの戦没者がいたに違いありません。中田喜直さんは、幸いにも命はとりとめました。あらためて、戦争は人間の敵であり、芸術の敵、と思う1月です。（田中正恭）



次回は3月24日(月) 今年度最終講座

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

バロック音楽

フルート 中川 佳子さん

ヴィオラ 小峰 航一さん

すばらしい組合せ!!! 期待しましょう。





左から、 バロックオーボエ オーボエ オーボエダモーレ イングリッシュホルン

---

メ モ